

船舶事故調査報告書

令和7年12月17日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和7年7月25日 06時20分頃
発生場所	兵庫県淡路市富島北方沖 富島港北防波堤灯台から真方位000° 1.3海里付近 (概位 北緯34°34.4′ 東経134°55.9′)
事故の概要	遊漁船 ^{だい} 大ちゃん丸は、漂流中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	令和7年7月30日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	遊漁船 大ちゃん丸、4.8トン HG3-26660（漁船登録番号）、個人所有 第260-42113号（船舶検査済票の番号） ディーゼル機関、4サイクル、出力341.00kW、回転数毎分 2,471、6気筒、ボア116.0mm、使用燃料軽油、機関製造年 月日不詳、平成8年4月進水
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特定（限定なし）
負傷者	なし
損傷	主機等に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客12人を乗せ、遊漁の目的で兵庫県神戸市舞子漁港を出航し、淡路市富島北方沖で漂流中、主機の冷却清水高温警報が鳴った。</p> <p>船長は、操舵室内にある機関室の天蓋を開け、機関室内の状況を見たところ、機関室内が深さ約30cmまで浸水しているのを確認した。</p> <p>船長は、浸水の原因を調査したところ、主機冷却海水ポンプの吐出部でゴム製主機冷却海水管が外れて機関室内に漏水しており、主機を停止したところ、同管からの漏水が止まったのを確認した。</p> <p>船長は、浸水によって電動式ビルジポンプが使用不能になり、機関室内に浸水した海水を排水できず、自力航行が不可能と判断して、家族及び友人に携帯電話で救助を要請し、その後118番通報した。</p> <p>本船は、通報を受けて来援した巡視艇による伴走の下、付近で釣りをしていた友人の船にえい航され、途中で来援した家族の船にえい航を引き継がれて定係地に着岸した。</p> <p>整備会社は、本事故後、主機冷却海水ポンプを点検したところ、同ポンプ吐出部にゴム製主機冷却海水管を固定していた金属製固定バンドが振動で緩み、同海水管が外れたと判断した。</p>

	<p>船長は、約２年前に定期検査で主機の各部を点検及び確認した後、金属製固定バンドが、トライバーで巻き締める仕様であり、緩むことはないと思い、主機冷却海水管の固定バンドの緩みを点検したことはなかった。</p> <p>本船は、整備会社により、機関室内のポンプ用電動機を含む全ての電装品が交換された。</p> <p>(写真１ 浸水状況、写真２ 主機冷却海水管 参照)</p>
分析	<p>本船は、主機冷却海水ポンプ吐出部にゴム製主機冷却海水管を固定していた金属製バンドが振動等で緩み、同海水管が同ポンプ吐出部から外れたことから、海水が機関室内に浸水したものと考えられる。</p> <p>船長は、本船が約２年前に定期検査を実施した後、金属製固定バンドがトライバーで巻き締める仕様であり、緩むことはないと思ったことから、同バンドの点検を行っていなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、船長が、約２年前に定期検査を実施した後、主機冷却海水管の固定バンドの点検を行っていなかったため、本船が航行中、同バンドが緩み、同管が主機冷却海水ポンプの吐出部から外れて海水が機関室内に浸水したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、定期的に主機冷却海水管の接合状況を確認し、固定バンドに緩みがあれば適宜増し締めを行うこと。 ・ 船長は、出航前だけでなく、出航後も安全な場所で、適宜機関室内の点検を行って異状のないことを確認すること。

写真1 浸水状況

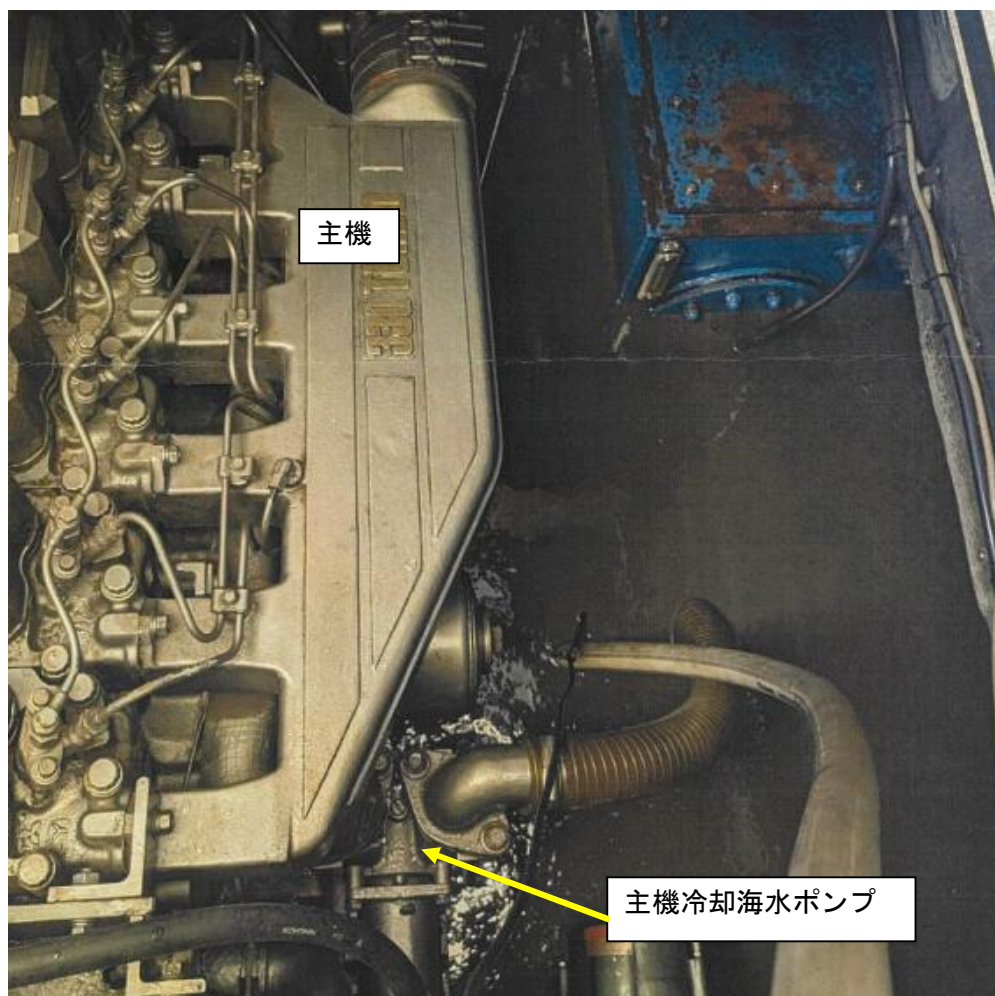


写真2 主機冷却海水管

